

答 辞

道端に咲く菜の花が、春の訪れを告げる季節となりました。本日、私たちは、卒業の日を迎えました。

新型コロナウイルスの影響により、私たち誰もが日々不安に包まれた生活を送っています。このような状況の中、本日は先生方、職員の皆様、お忙しい中、徹底した感染症対策を考えてくださり、このような盛大な卒業式を挙行して頂きましたこと、卒業生一同、心より御礼申し上げます。また、高橋学長先生から温かいお言葉を賜りましたことに、重ねて深く御礼申し上げます。

大学生活の四年間は、瞬間に過ぎていきました。私が今日、この場に立てているのは、入学式の日から今日に至るまでの四年間、先生方、職員の皆様や、友人、家族が、ずっと支えてくださったのおかげだと思えます。

大学一年目は、慣れない時間割や講義内容など、今までとがらりと変わった環境に、とにかく付いていくことに必死だったのを覚えています。

大学二年目は、東雲祭やインターンシップ研修に参加し、充実した学生生活を送りましたが、大学三年目は、想像もしていなかった事態に直面しました。予定されていたソーシャルワーク実習は学内での実習となり、将来への不安が大きくなりました。しかし、先生方が幅広い分野の学びを得られるようにとご尽力くださり、不安な日々を乗り越えることができました。

大学四年目は、新型コロナウイルスの影響が続く中、就職活動やスクールソーシャルワーク実習、卒業研究、社会福祉士国家試験の勉強など、様々なことを進めていかなければならない日々でした。それらを進めていく過程では、自分の弱さや至らなさ、未熟さと向き合わせるを得ず、何度も心が折れてしまいそうになりました。しかし、その日々は、様々な困難と向き合いながらも、たくさんの人とのかけがえ

のない繋がりに恵まれ、支えられながら、夢や目標に向かって一歩ずつ進んでいくことができた日々でもありました。ただ、大きく成長できたのか、なりたい自分になれたのか、と問われると、それはまだまだ途中だと思っています。卒業後も、人との出会いや繋がりを大切に、常に感謝の心を抱いて、一人の社会人として成長を重ね、なりたい自分になれるよう、支えてくださった皆様に恩返しができるよう、努力していきたいと思います。そして、失敗を恐れずに挑戦し、周りの人と支え合いながら、社会に貢献していくことを目指します。

最後になりましたが、これまでご指導いただき支えてくださった先生方、職員の皆様、たくさん励まし合った友人たち、そして、いつも温かく見守ってくれた家族に、心より御礼申し上げます。

皆様方のご健康と松山東雲女子大学の更なるご発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

二〇二二年三月十一日

松山東雲女子大学 卒業生代表 山口 果歩